

道博協ニュース

第58号

発行所 北海道博物館協会
北海道厚別区厚別町小野幌
北海道開拓記念館内
電話 011-898-0456
FAX 011-898-2657

平成9年度北海道博物館協会事業

(仮題) 学芸員がすすめる

北海道博物館ガイドブック

平成9年度北海道博物館協会事業として、「北海道博物館ガイドブック」の発行が計画されています。

これまで、いくつかの北海道博物館ガイドブックが出版されていますが、最新出版物を除いて、最近のニーズに答えきれていないというのが現状です。

学芸員部会では、新たな視点でのガイドブック作りをと、平成8年度総会において提案し、承認を得てから検討し、承継したが、平成8年11月28日開催の第3回北海道博物館協会役員会にガイドブック編集事業を上程したところ、平成9年度北海道博物館協会事業として取り組むことへの承認を得ました。

「いつでも・どこでも・どんな人が見ても・役に立つ・わかりやすい」ガイドブックを目指して編集の準備に入ったところです。

※どのようなガイドブックになるのか

施設案内だけの内容にはしたくありません。その博物館でどのような活動をしているのか、見どころは何か、そこへ行けばどのようなことがわかるのかを端的に知っ

ていただく、このことを基本としたいと考えています。

盛りだくさんの内容、というよりも「その博物館が一目でわかる」、そのような内容のガイドブックです。

さらに、系統だった博物館紀行も取り入れたいと考えています。

例えば、「化石」を探る旅をしたい方には、体系的な展示、調査研究活動を行っている施設を紹介し、「見たい・知りたい・極めてみたい」という知的好奇心が満たされるような配慮も考えられます。

これまでのガイドブックには単純な誤記載が見受けられ、利用者にとって不便なこともあったという。ガイドブック作りそれぞれ地域で活動している学芸員の積極的なかわり方があれば内容的に充実したものになったのでは、と思われまます。

※ガイドブックにはどんな情報が掲載されるのか

掲載内容について、決定段階ではありませんが、次のような情報は基本として必要ではないか、ということ検討しているところですので。

●「目玉」…その施設の特徴的な(特色ある)展示物あるいは展示手法等。

●「活動」…その施設での調査・研究活動、普及・教育活動等を紹介。

●「ワンポイント」…その施設のキャッチフレーズ、学芸員からのメッセージなどをワンポイント的に紹介。

●「アイコン情報」

●「施設情報」…入館料、時間、休館日、交通案内、見学所要時間等々。

これら情報に加えて、交通略図、施設の写真、特色ある展示物などの写真を掲載します。

※掲載する博物館

すべての博物館を掲載するには、本の体裁から限度があります。また、恒常的に開館している施設ばかりではありませんし、活動内容にしても不明なところもあります。掲載にあたっては、各地の編集委員に委ねるところが大きいのですが、現在、検討している掲載する館は、北海道博物館協会加入館、博物館協会加入を前提とした館をA分類、協会未加入でも編集委員が推薦する館をB分類、協会未加入で独自の活動を実践している館をC分類として、A・B分類については一ページ掲載、C分類については一覽表掲載を予定しています。

掲載方法については、さまざま

考え方があると思いますが、博物館協会事業としての取り組み、協会の加入促進の観点からの考え方としていきます。

※レイアウトは
一ページ一館図とします。

支庁管内ごとのとりまとめとしますが、支庁による館数数のバラツキがあり、必ずしも有効な方法とはならないのでは、と思います。例えば、天気予報ブロック分類によるとりまとめひとつの方法と考えられます。さらに、ブロックごとにイラストマップを巻頭掲載し、各館の所在地が一目でわかるような配慮をします。各施設のルート化が図れるのではないのでしょうか。先にも述べたとおり、ブロックごとの特色ある館の概略、専門館の系統だてた紹介(学芸員によるワンポイントアドバイス)も各所に挿入します。

※これからの取り組み方

現在、学芸員部会役員を中心とした編集委員による掲載館のリスト作りを行っています。全体のポリシーを把握し、検討中の掲載内容フォーマットの決定後、各館へ執筆依頼を予定しております。

学芸員の手による「わかりやすい・役に立つ」ガイドブック作り、皆様のご協力があったはじめて為せることです。

学芸員部会事務局長 矢吹俊男

●「沿革」

平成八年度 日本動物園水族館協会

北海道ブロック事業報告

北海道ブロック事務局 嶋田 信行
(札幌市円山動物園)

社団法人日本動物園水族館協会の北海道ブロックは、十二園館と六名の会友で組織されています。平成八年度の事業を次のとおり行いました。

【春季飼育技術者研究(研修)会】

日時 平成八年六月二十六日
(水)・二十七日(木)

場所 釧路市農村都市交流センター(釧路市動物園)

参加人員 十八名

- 演題
- (1) シロオビアゲハの人工交配と人工採卵
 - (2) 新ベンギン舎の紹介
 - (3) ヘラジカにおける栄養改善の試み
 - (4) エゾヒグマの精液採取の方法
 - (5) 水槽内で孵化したタナカゲンケの飼育経過
 - (6) オマキトカゲの繁殖及び幼体の飼育経過
 - (7) ダチョウの飼育経過
 - (8) バンドウイルカの腸内温度測定

- (9) ヒナコウモリの飼育例
- (10) ワビチにおける硫酸銅、硫酸亜鉛の試験的継続投与
- (11) ラッコの死亡
- (12) スズガモ・コガモの人工繁殖

【園館長会議】

日時 平成八年八月二十一日
(水)・二十二日(木)

場所 ホテルセビアス(室蘭水族館)

参加人員 十四名

- 議題
- (1) 各園館の近況
 - (2) 会議の見直
 - (3) 会議等負担金の増額
 - (4) 傷病鳥獣保護収容ネットワークシステム
 - (5) 全道幼児・児童動物園コンクルの表彰等
- 【施設安全管理担当者会議】
- 日時 平成八年九月十九日
(火)・二十日(水)
- 場所 ホテル奥田屋(稚内市立ノシャップ寒流水族館)

参加人員 十二名
議題

- (1) 排泄物等汚物の処理・処分
 - (2) 飼育関連設備の水質管理
 - (3) 館内の除湿対策
 - (4) 高齢者又は障害を持った来園者への施設面の配慮
 - (5) 建築基準法による定期検査
 - (6) 遊具の修理
 - (7) 汚水管の清掃
 - (8) 施設内植栽部の病虫対策
 - (9) 緊急停電時の対応と自家発電
 - (10) 空き缶・瓶等不燃物の分別と処理方法
- 【秋季飼育技術者研究(研修)会】
- 日時 平成八年十月二十二日
(水)・二十三日(木)
- 場所 新札幌アークシテイホテル(千歳市アザ水族館)
- 参加人員 二十一名
- 議題
- (1) ゴマフアザラシの飼育経過
 - (2) ジオラマ水槽の制作及び水槽を用いた特別展示
 - (3) キジ類・水鳥類の人工孵化
 - (4) エゾリスのペアリング経過と出産・子の死亡
 - (5) レッド・ジュエル・フイッシュの繁殖及び飼育経過
 - (6) トナカイ(幼獣)の左中

骨折折に対して行った外固定術による整備とその評価

- (7) 学習体験
 - (8) オオワシの繁殖行動におけるビデオ撮影記録
 - (9) レッサーバンダの繁殖と飼育経過
 - (10) ネズミイルカの死亡例
 - (11) ショー及び訓練時間外のバンドウイルカにおける小道具利用
 - (12) 野生動物の保護状況(一九九一～一九九五)
 - (13) アフリカツメガエルの産卵と経過
 - (14) おびひろ動物園教育活動
 - (15) ワモンアザラシとのふれあいタイムの試み
- 【園館長及び事務主管者会議】
- 日時 平成九年一月二十八日
(火)・二十九日(水)
- 場所 ボールスター札幌(円山動物園)
- 参加人員 二十二名
- 議題
- 1 各園館の平成八年度事業報告及び平成九年度事業計画
 - 2 (社)日本動物園水族館協会中間理事会の結果報告
 - 3 各種会合ブロック開催計画
 - 4 情報ネットワーク検討結果
 - 5 (3)ズーチャックについて
 - 6 北海道鳥獣保護収容対策
 - 7 北海道鳥獣保護保護指針

- (2) 動物の保護管理に関する最近の事例
- (3) その他
- (4) (社)日本動物園水族館協会理事会提出議題
- (5) 平成九年度総会並びに協議会議議題
- (6) 平成八年度飼育技師資格認定試験
- (7) 平成十年度道ブロック各種会議開催地
- (8) 平成十年度(社)日本動物園水族館協会並びに協議会開催園館
- (9) 北海道博物館協会ガイドブックの発行等



平成八年度 北海道青少年科学館 職員研修会報告

北海道青少年科学館連絡協議会 事務局 旭 司 益
(小樽市青少年科学技術館学芸員)



平成八年度の北海道青少年科学館職員研修会が、十月三日・四日の二日間、小樽市青少年科学技術館で開催された。本研修会は、北海道青少年科学館連絡協議会に加盟する理工系科学館職員を対象に、毎年一回行われているもので、今回は道内各地から十四館二十八名が参加した。他館との情報交換を第一に考え、活発

な情報交換のやり取りが行われた。一日目の午前中は実技研修というところで、ドライアイスを使った実験とステレオビデオ作りを行った。ドライアイスの実験では子どもたちに好まれそうなアイスクャンデーやシャーベット作りの実験を行った。また、ステレオビデオ作りは、二台のデジタルカメラで撮影した出席者の写真をパソコンにより処理し、自作したステレオビデオで自分の顔を立体写真として見た。出席者からは質問や意見も出て熱心な研修が行われた。午後は、公開天文台ネットワーク(PAONET)の取り組みについての発表がなされた。道内での加盟館が少ないうえ、国内外からの新しい天文の画像情報が手に入り、また、展示・プラネタリウム等活動範囲が広く、著作権的にも手続きが簡単である。引き続きメインである情報

交換会が行われた。二つのテーマで熱のこもったやり取りが行われた。一つ目のテーマは「簡単にわかりやすくおもしろい実験・工作」というたいへん虫のよいテーマであった。液体窒素を使った実験はどこでも行われているものだが、コンニャクゼリー・ジュースでシャーベット(上砂川)、ガム・マシユマロ(旭川)など食べ物凍らせるものには人気がありという報告があった。最近人気のペットボトルロケットを安価に作る方法(苫小牧)、紫外線を利用したスタンプや入浴剤を作る実験(札幌)等の報告もあった。中でも出席者の度肝を抜いたのが、フィルムケースを利用してわずかなアルコールを圧電素子で爆発させる「アルコール鉄砲」(滝川)であった。余りの大きな音に思わず目が覚める思いがした。

二つ目のテーマは、「各館の特別展・企画展について」であった。旭川で夏休みに行われた「ラ・ビレット展」楽しいコンピュータ」についての発表があった。これはフランスの国立科学技術普及施設「ラ・ビレット」の展示品による参加体験型の特別展である。他には、「科学とあそぼう」(帯広)、「宇宙への夢40年そして未来へ」(釧路)、「カメラ・ワールド」(札幌)、「望遠鏡の世界」(遠くを見つめるもう一つの眼) (苫小牧)、「'96ソーラークリエイティブ・in・北見」(北見)等についての発表があった。どの館も予算の少ない中苦勞しているが、滝川からは国立科学博物館の協力による「かはくトラベルミュージアム」を始め、経費をほとんどかけない特別展を開催しているとの発表があった。予定の時間をオーバーしながら有意義な意見の交換がなされた。

二日目は、平成八年四月にオープンした「小樽交通記念館」の見学を行った。建設に携わった小樽市教育委員会主任の土屋学芸員より、施設の概要を始め、完成に至る経緯や苦勞話などたいへん興味深い話をお聞きすることができた。ターンテーブルで回る「しずか号」や屋外を走る蒸気機関車「アイアンホース」など鉄道に関する展示、さらに船、自動車から自転車に至るまで様々な交通機関の展示を、参加者は予定時間ぎりぎりまで熱心に見学していた。短い時間ではあったが、自身の濃い二日間の研修を無事終了した。





平成八年度
**「道南ブロック博物館施設等
 連絡協議会」研修会報告**
 道南ブロック博物館施設等連絡協議会事務局 長谷部 一弘
 (市立函館博物館学芸係長)

平成八年十月十八日、函館博物館本館において連絡協議会会員二十四名の参加により「博物館活動における情報処理」をテーマに研修会が行われた。今回の研修会では、日頃の博物館活動の中で実際にパソコンシステム導入事例とその有効活用を道南地域のネットワークの中で活かすためのきっかけをつかむものであった。取りも直さず「博物館活動における情報処理」は、資料

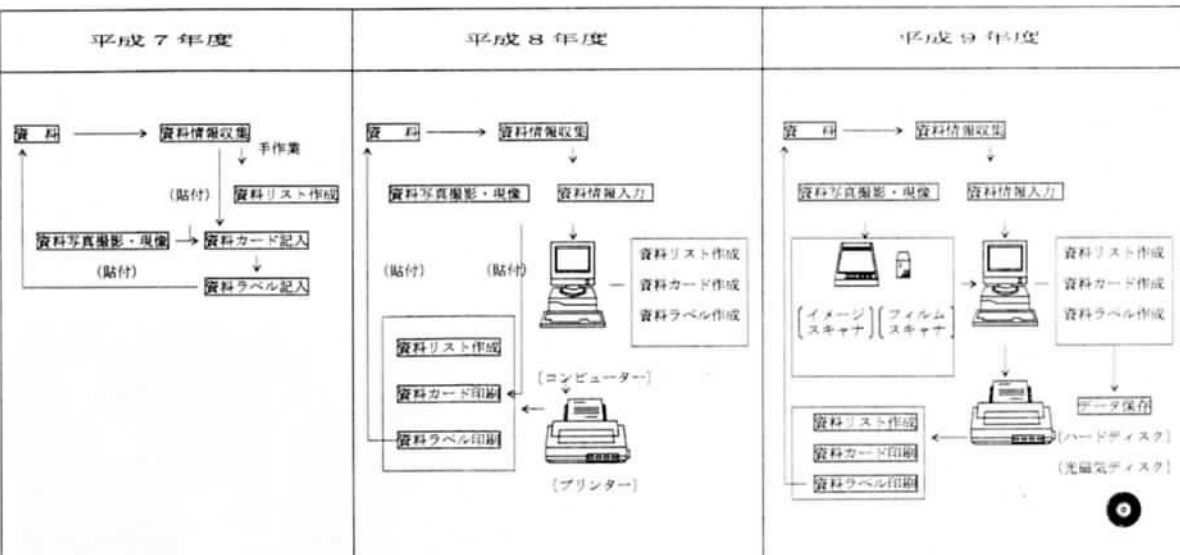
を發揮している。研修会では、道南地域で昭和六十二年頃からいち早くパソコンシステムを導入し展示解説や展覧会、講座等に幅広く取り入れて大きな成果を上げている知内町郷土資料館の高橋豊彦学芸員と平成七年度からようやくパソコン導入を開始した市立函館博物館の佐藤理夫学芸員を講師に迎え実

カードの作成や広報活動のためのチラシなどこれまでの手間暇のかかる手作業を効率よく簡便にするための手段としてパソコン機器の導入とその活用を指すものである。近年多種多様に複雑化する日常の情報社会生活において、インターネットにはじまる気軽に、手軽に、そして迅速に情報を収集、処理できるパソコンシステムは、とりわけ博物館活動における作業量の簡便さと有効な記録保存に大きな威力

際にパソコン機器を使いながらの事例発表であった。パソコンは、アップル社製パワーマック8100/100AV、NEC製PC-9821V12の機器を使用し初歩のデータ入力からその応用におよんで紹介された。知内町郷土資料館の事例では、「知内町歴史散歩」と題して町内に在る有形、無形の文化財を紹介するための活字化は無論のこと写真等を入力し来館者、講座等に活かす内容や催事案内の作成など多角的なパソコンの活用方法の一つとして紹介された。また、函館博物館の事例では、パソコン導入までの経緯とパソコン処理による受入資料の資料カード化と目録作成および資料ラベルの作成等の実際を通して博物館活動における多様化する情報処理の在り方が紹介された。

今後幅広い情報提供とそれに伴う博物館ネットワークが益々重要視される中、今回のような道南ブロック研修会の成果は、博物館活動に関わるインターネットの開設や人材バンクの登録化等々の新たな事業展開に連動させて有効に活かしてゆきたい。

た。



市立函館博物館パソコン導入年次計画

平成八年度

網走管内博物館連絡協議会活動報告

網走管内博物館連絡協議会事務局 佐藤 明夫
(網走市立郷土博物館館長)

当協議会は、網走支庁管内

全域をエリアとした博物館の連携と情報交換、研修など施設事業の振興発展を図る目的で昭和六十二年に発足以来、本年度で九年目を迎えました。

現在、二十市町村の博物館、郷土資料館(室)など三十五施設が加入しています。

今年度から活動の成果が理解され、財政基盤の充実が図

られたところです。

さて、当協議会の事業活動ですが、二本柱である研修会開催(年二回)と広報活動として機関紙「とびだせ網博協」があります。ここでは、平成八年度の活動内容を紹介します。

一、研修会の開催

(一)個別研修会(前期研修会)
期 日 六月二十六・二十七日

・会場 美幌博物館
・対象者 管内博物館職員、教委社会教育職員、博物館関係員、博物館関係団体の構成員

・参加者 二十七名
研修内容は、一日目の各館の現状と課題については、五博物館から次の現状について報告され討論した。

▽博物館資料データベース化
事業▽埋蔵文化財の担当のあり方・専門職員及び学芸等を

含めた充実体制▽施設の拡充とタイミング、学芸員の専門性と事務職のはざま▽ミュージアムショップ▽将来への展望(蔵書・資料データベース等)▽オホーツク・ミュージアム・インフォメーションの作成発行▽一般寄贈資料の受け入れ▽博物館の緊急発掘調査対応の問題▽博物館建設計画▽上湧別町ふるさと館JRYの概要(平成八年八月一日開館)など

・対象者 前期研修と同様
・参加者 三十五名

・内 容 講演の演題「オホーツク海沿革の考古学雑感」

―オホーツク文化の解明に
尽くしたひとびと―
講師 早稲田大学教授 菊地 徹夫氏

講演要旨は、▽オホーツク文化はいつ頃栄えたか▽オホーツク文化の主な遺跡、特にモヨロ貝塚の発見、発掘からオホーツク人はどこから来たか▽オホーツク地域での発掘や遺跡など国際的な研究の成果を交えオホーツク文化、擦文文化・アイヌ文化へと受け継がれた漁労、狩猟の生業活動などが行われた話しをなされ、大変有意義な研修であった。

二、広報活動
機関紙「とびだせ網博協」は昨年創刊したが、内容は当会の総会報告、研修会報告、管内博物館の活動案内、出版物の紹介など。

三、総会・役員会の開催
総会は、五月十七日、北網

・期 日 十一月二十一日
・会場 北網圏北見文化センター

魚類相調査の実習で投網による魚の捕獲を体験した。最後に全体討議を行い研修会を終了した。

事業及び決算報告、事業計画、



役員会は、一回目は五月十七日、総会提出議案について、二回目は十月二十七日、会場は北網圏北見文化センターで開催。平成九年度市町村義務外負担の申請に係る事業計画、予算等を協議決定した。

以上、事業活動の状況を紹介しましたが、当会も来年度は十年を迎えますが、より多くの博物館施設の参加を期待するとともに、九年間の実績を踏まえより充実した活動を展開してまいりたいと考えているところです。

平成八年度

道東3管内シンポ「これからの博物館」

道東3管内博物館施設等連絡協議会事務局 川上 淳

(根室市博物館開説準備室学芸員)

道東3管内博物館施設等連絡協議会では、当初より年一回の研修会を「学芸員等会議」として実施している。

今年度は、上士幌町糠平温泉文化ホールを会場に、十月二十四日・二十五日の日程で、行われた。

今回はシンポジウム「これからの博物館」と題し、3管内だけでなく他管内からも含め四六名の参加があった。主催は本協議会の他に、十勝管内博物館学芸職員等協議会・ひがし大雪博物館との三者であったが、テーマから講師の選定、会場準備などは、ひがし大雪



博物館の川辺百樹氏に負うところが大きい。

●基調講演

「これからの博物館 活気ある博物館となるために」講師 糸魚川淳二氏(稲山女学園大学教授・名古屋大学名誉教授)

ご承知のように、糸魚川氏は古生物や化石の専門家であるとともに、岐阜県瑞浪市化石博物館設立に関わり、「日本の自然史博物館」を著し、博物館活動に積極的に発言されておられる方である。

講演では、これからの博物館は、人・自然・地域がキーワードであることを強調された。博物館のベ이스に自然があり、博物館は多様性を秘めている。これからの博物館は、法を変えることも必要ではあるが、博物館自身が変わるという発想が求められている。研究成果は地域に返し、人と人のつきあいを大切にする相互理解の博物館がこれからの博物館像であるとされた。

●パネルディスカッション「これからの博物館」
次の四人のパネラーからの報告

があり、続けて討論に移った。
☆「地域おこしと博物館」伏島信治氏(たぐきん総研)

博物館には、たぐらみ型・もんきり型・ゆとり型などのタイプがあり、今までの博物館は情報量が多いが、展示は一回りするに終わってしまい冷たい感じがする。これからは市民・情報がキーワードとなるあたにかい丸みのある博物館が求められていると提唱された。

☆「自然公園と博物館」岡本光之氏(環境庁自然保護局大雪国立公園総括管理官)

環境研究と環境教育という視点から、大雪国立公園では十勝三股を中心としたエコミュージアム、エコロジーキャンプ等の具体的な運営、活動方法のあり方などを提案された。

☆「地域文化と博物館」辻秀子氏(帯広畜産大学)

地域丸ごと博物館論を展開した。特に地域は水系を軸に考えたらどうかと話されたことに対しては、後の討論のテーマとなった。博物館で資料を集めてみせる時代は終わり、博物館が街角にいくつもあり、学芸員が地域に出て、博物館はみんな育てることが必要であると強調された。

☆「研究者と博物館」斎藤新一郎氏(専修大学北海道短大)

氏は、これまでのひがし大雪博物館との関係から、研究者がその地域で研究したことはその地域で

発表すること、また研究者をフアンとしてその街に取り込むことが博物館やその街だけでなく、研究者にとっても成果を生かすことが出来ること、研究者と博物館の関わりを論じられた。

●巡検「音更川上流の自然と歴史を訪ねる」

ガイド役は池田亨嘉氏・山原敏朗氏(帯広百年記念館)、小沢克彦氏(富士見館)、今尚之氏(小樽商科大学)が担当され、上士幌町鉄道資料館・土幌線コンクリートアーチ橋・電力館・五の沢白樺再生林・幌加チャシ・ライマン野営地・一三の沢黒曜石原産地と遺跡を巡検して、全日程を終了した。

今回は、ひがし大雪博物館の活動の幅の広さを知らしめた結果となったが、館外の人を中心に、様々な立場からの発言が大変刺激になり、これからの博物館を考えるきっかけとなった。



事務局日誌

- 2・12 道東3管内及び網走管内博物館施設等連絡協議会、北海道美術館学芸職員研究協議会へ交付金及び補助金の支払
- 2・12 日胆地区博物館施設等連絡協議会の設立準備会
- 2・25 於 苫小牧市立博物館「道博協ニュース」第57号発行
- 2・25 第1回北海道博物館協会「ミュージアム・マネージメント研修会」の事業終了報告書を道教委へ提出
- 3・1 京極町公民館入会
- 3・26 平成8年度第4回役員会開催
- 3・30 道博協学芸職員部会及び北海道青少年科学連絡協議会へ補助金の支払
- 3・31 若見沢郷土科学館退会
- 3・31 「道博協ニュース」第58号発行
- 3・31 平成8年度「北海道博物館協会加盟館園現況」発行

お願い

「館園のおまな行事」の作成のために、平成9年度の各館園の行事一覧を4月中にお送り下さい。